

令和3年度地域包括支援センター運営事業中間評価（令和3年11月末時点）

印西南部地域包括支援センター

事業ごとの評価と計画	
総合相談支援業務	1247件の相談対応を行った。他機関と十数回の支援をしたり、数年にわたって継続的に支援をしているケースなど中にはある。 家庭の中の問題や家族関係の問題も多く、支援が困難なことも多くあり、継続的な対応が欠かせない状況がある。
権利擁護業務	高齢者虐待は2件、短期間で解決できるように支援をしている。 認知症の出前講座や「わたしノート」の活用の説明を通して、住民へ権利擁護の周知を行ったり、居宅介護支援事業所へは文書で周知を行うなどした。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	ケアマネジャーからの相談は同様に多く、相談の入ったケースには継続的に後方支援をしている。 インフォーマルへの視点がケアマネジャーの中に少しずつ増えており、地域資源の情報提供を行っている。 今年度は、介護支援専門員の後方支援として、コロナ禍によりオンラインでの研修が増えたことから、5包括共同で「いんばケアマネネットワーク」にて、ZOOM練習会を企画、実施した。
地域ケア会議推進事業	個別ケア会議2回。推進ケア会議は計画通り3回施行し、経済的課題のある高齢者世帯への支援として、継続して多職種にて会議を行い、ネットワーク作りに繋がった。
在宅医療・介護連携推進事業	第1回在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議に出席して、市の事業計画を共有した。 救急キットの活用促進の為、居宅介護支援事業所への再度周知や、地域においての周知活動の結果、約50件以上のキット申請が出来た。
認知症施策推進事業	認知症カフェはR3年度6回の計画だったが、緊急事態宣言中にて1回中止せざるを得なかった。参加者は当事者、介護者がほとんどであるが関心を持ちケアしてあげたいという気持ちで出席される方が見

	<p>られ始め、継続してきたの成果と思われる。 認知症サポーター養成講座は小学校以外には地域にて1回開催、今後も複数回開催申し込みがあるので引き続き行っていく。 認知症初期支援チームには1例連携することができた。</p>
生活支援体制整備事業	<p>圏域のワークショップとしてほぼ固定された住民で集まり、情報交換、意見交換を繰り返し行った。(計3回)生活支援コーディネーターが住民とともに地域について話し合え、共有できる良い機会となった。 今後は地域のことを住民中心に話し合う会を開催していくこととなった。</p>
令和3年度事業中間評価(総括)	
<p>昨年と同様、コロナ禍の影響をできる限り最小にすべく、事業の中止を避けるよう工夫や、延期をするなどし開催した。 コロナ禍にて影響を受けたちよきん運動への声かけも行い、負担なく運動が再開できるようフォローできた。 地域の中で支援の必要なケースの早期発見が少しずつ出来ており、構築されたネットワークの手ごたえを実感している。関連して今年度継続的なテーマで開催した地域ケア推進会議では、多くの多職種の方々が圏域の課題について意見交換を繰り返し、相互理解でき、気軽に相談できる関係性が出来上がり、実際の支援の中でスムーズかつ多面的な支援が可能となってきた。 認知症カフェについては安定して継続開催ができており、「認知症当事者や介護者が行きたいカフェ」になりつつあることが感じられてきた。</p>	